

子宮がん検診（神奈川方式）

動 向

神奈川方式による子宮がん検診は、昭和44年日母設立20周年を記念して神奈川県産婦人科医会との協力事業としてスタートしたものである。県下の医会会員医療機関から郵便により送付されてくる細胞、組織材料について鏡検、判定を行い、その結果を医療機関に返送しているシステムである。現在は神奈川方式と呼ばれている。

精度管理については、当該医療機関の協力により精密検査対象者についての追跡調査が当協会の臨床検査部により行われ、県産科婦人科医会のご協力により年一回の報告会を開催している。

平成24年度は、一部の医療機関が自施設内で鏡検、判定を行うようになったことなどから、頸部検診において検査数28,116件（前年比－3,490）、受診者数26,490名（前年比－3,467）で、前年に比べ検査数は約11%減少している。

方 法

平成24年度の神奈川方式による子宮頸がん検診は、平成21年度からベセスダシステムに改定され、4年目を迎えました。標本の評価については、不正の件数が、72件（0.27%、前年度71名0.24%）で、ほぼ同じでした。年齢階層別では、20歳代9件（0.20%、前年度0.14%）、30歳代15件（0.21%、前年度0.09%）、40歳代13件（0.22%、前年度0.24%）、50歳代11件（0.29%、前年度0.34%）、60歳代14件（0.43%、前年度0.52%）、70歳代10件（0.45%、前年度0.32%）でした。

諸先生方のご諒解、ご協力を戴ければ、より良好な標本作製の出来る液状化細胞診（Liquid based cytology）の導入が望ましいと考えます。

子宮頸がん検診

平成24年度の頸がん検診受診者総数は、26,490名（前年度29,957名）で前年度より12%の受診者減少でした。

平成24年度の頸がん確定数は、53名（0.20%）で、20歳代6名（0.14%）、30歳代18名（0.25%）、

40歳代9名（0.15%）、50歳代6名（0.16%）、60歳代8名（0.24%）、70歳代6名（0.27%）で、30歳、60歳、70歳代にがん発見率が高い傾向が見られ、特に30歳代に初期がんが多く、当年代のがん検診受診率の向上が、望ましいと考えます。

子宮体がん検診

平成24年度の子宮体がん検診受診者総数は、6,615名（前年度6,998名）で、陰性6,365名（96.22%）。陰性・再検3名（0.05%）；異常なし1名、良性疾患1名、追跡途中1名。疑陽性30名（0.45%）；体がんⅠ期2名（0.03%）、病期不詳1名、内膜増殖症6名（0.09%）、頸部異形成2名（軽度・中等度異形成）、良性病変13名、追跡途中3名、受診状況不詳2名、異常なし1名。陽性24名（0.36%）；体がんⅠ期14名（0.21%）、Ⅱ期4名（0.06%）、卵巣がん3名、内膜増殖症1名（0.02%）、頸部異形成1名（高度異形成）、追跡途中1名。判定不能193名（2.92%）でした。その他のがんを含む発見率は0.36%で、50歳以上では、23例（0.35%）で多い傾向を認めました。

病理組織検査結果

24年度の病理組織検査件数は、341件（前年度314件）で、やや増加傾向が見られました。

病理診断結果は、子宮頸部扁平上皮がん11件（3.23%）、上皮内がん25件（7.33%）、中腎管がん1件（0.29%）、中等度異形成14件（4.11%）、軽度異形成50件（14.66%）、内膜腺癌6件（1.76%）、子宮間質肉腫1件（0.29%）、内膜増殖症4件（1.17%）、その他の良性疾患227件（66.57%）、異常なし、診断不能は各1件でした。

関係の集計表は97頁に掲載